

花傳書
四

特別
千12
3606
4



特
412
3606
4



凡のこといひの天地陰陽をうことり大のこ
小のこことうおせり小鼓の陰也大鼓の陽也
行の見子あを成六のあを成六曜此即を
ひのうきり大のこといひ月よれと人笛の白を
うことり胎胎界金剛界といひり笛といひ
天竺よてい薬王大唐よてい馬明乃作り孫ふ
秘樂あくい茶王菩薩といひり是のゆりこを
運多ひ水中り一鼓のあくい急成きく作り
八ののあをを八葉此蓮花と観念して
びし急をまたふ大鼓といひのたりり
あつたの宮子位たまあ源太史乃神は岩戸此
時をうめたまふいし道もろれいられあま



あわれとりへとも大形こまきよりき侍る拍子の
こゝろもち口傳おや一オウひ哉中として序破
急陰陽のわりうちをたらしし文字句うけり後
めわりうれを吹いて物もろくたしあまもや
二目かんようなわ拍子よさうへありくと思ひ
うちをいめくううちと尸也とうくけいこ
わくく一よ一といなわむ一岩竜子屯の咲
ころやうよ清りたや一あはくくも物一ろ
うすることうれをかんり一もら一オ一の
あ一き一りみくもろけん庫一のこゝろもち
これまき上下あうりくあま

四目の終れ歌やうれる

一 初日を二日のまを減しつらよまき花のけを見
ころやうふたやとへし
一 二日めよは三日め乃ま哉のこ一まきのあまそ
ころさま一花乃くふやう庫くうつまきころ
まよはなやとへし
一 三日目よは四日めのまどのこ一まきのあまそ
ころさま一花のくふいさうりともみゆる横よ
こやすへし
一 四日目よは春をわくくまき減る花乃くま
咲みたま木くの木す急四ま乃山くもまめまき
わくり人のこゝろもまきころやうよおまます
乃こまま哉所く一歌へ一四日乃をや一やう

おかりしめはひりやとて五目めもあついで
人乃より次才は離れへしあくりいといとて
るよゆるさくは事一才一乃ひりす也五日乃
終とつふすに一切あきするもて四日の終も
を代さこまわり昔い三目よりあきくる
一より作のなり抱才をわね要也才なりかまへ
あけ進い見ふくきものもて一才一乃た
あまとは才なり乃りすみても
一終いろをわきれてあちを志也
一才なりを志もそひやうを志きもろく乃
くせ乃あき極よ才一のたあこ也
一沛お乃るや一の事一調子い双調なりい

よいりう人とさけて像面ううあ大おつよも
志んよさやとて一をうえりけへうい大鼓
貴人の内おをすうそつてくうへ
あまわりよきさもたうういといつても
よく祝云をうく見たりとて
一才更かんあるは舞あは時大鼓志鼓よよ寸
よ城ううぬもの也こまきゆいよとつひて
おなきよきよ事也
一苗座の花所おれとつあるあり苗座の花と
ういかめう進だきことうりをおりひて徳の
文字乃くさりやうなも志ういよわのん
ちくめをもんうけめめう打ふたくさんよ

うらうらふいさるもあしぬも是ぞがむのこも
尚座のむとつひて下よの志わきなわ片ぬの
まあといひさる人まき也あしひねあんと
るをんちよたししもうひの文字よあひ
ごらんとくよけくすのりと打く人あ尚座の
あさひーきやうよんともとわらりてすい
ときておのうー尚座の花いーめ面白く
おゆとともとりりてたもーろあしひい
よ下よれわのち也

一志しぬうひをりやせうひ人もとれ志わ
ころあちをーし清りもやーんろあひのす
おやーうひれこうあんまつくろ但ーぬ

うひいそん座しやうあしひいむくの拍子を
らわりのまへし口傳よあり
一つこれまよきしうろもち乃す志いさわ
やむ二のり人をるうろうがけもよさりす
こふときのもち

一もんある能むゆん能とつあるありえや
すく口傳とへし無文なる能い見とろあ
ち君を座ーまでなわまをくたくえやー也又
あ家のふい見あしあひこ能能を本よ歌也
一座くろのまけ打換れをかくれいりーら乃
位よあるものなわまはし急うけぬおなわ
よといふるい能の文字くろわのんちくめ

まゝあはせておへしちひまふありとちりり
思ひうりくいとちりりいふ志あふのりり
りぬ物ありまゝくゝひをいへお應志とふ
まなふいへくゝひの品よりうけよい物
よりおつこすへくゝひのりんよりおま
きさもよりうちいへくゝし品かへりお應
りんよ一也

一 度妻のまや一の事ひくきあふあきことろ
よそいあふと女中と思ひ祿のまなわを
まやまへくゝひくきあふあふくゝきく
まやまへくゝ熱別ひくきのまきひくゝぬ
あまきことろのおちりひせけいられとまきうれ

まきことろのくふくふお別してくゝあまきくゝ
まゝくゝひくゝまなわとまゝろよそまかぬく打
まゝ一きたなわ

一 志清りなるまゝまきまらたありまゝまきま
まはまをまゝくゝまを志別むるまらなる
まゝまはまを志清めいさむか拂乃んお
まも大和かりまは女まうせ男まうせの位と
マゝり陰陽乃る也まらもちとまを二つは
わくは儀なわ

一 出さん乃位まゝ所おありの位とつあるまあり
あゝひまゝまきことろひをむひりあく
心乃うちよ吟してまゝくゝぬをわんうんうち

おとこへしきまの部次舟つりまも大小太鼓
打おのすしひおかしくめはらもちらふり
わさぬうへひくくぬようむく也あひ乃淫の
すゑの位成りきさきのおとこくくぬみうま
おきむうれ位成りけきさ乃ち更乃おと乃
位成りうゆ人ふらわかあり位といわ
一舞のおろもところ終りていち更乃おかま
あしをを見合せておろも度おとこい箇は
志こころへししもに席のうちよけをたす
なりたろ一取笛と大小ともはたろ也舞の
あかん志んをきいよく心けへし
一鼓きこふ事一才一くせを志まんするすと

よしくたしあむへしうよもくかけくと
うちらん可然とまんきるあ一せいのこ
うりかあるましくる

一 眼ハ腰ハあき勢いこころまじひひまきをもち
事一才一秘す也

一 ちのひわまけて打りへん心持のりまへの
きりをとりくつてはまするをらあけ
へしきまのいさうあひへしてをへんへ
はれまはらうあすあきものなり是は
志こころへし志こころね謝といわよ下よれ
わうち也おのろきん持なわ

一 法藝たりあこれ事よりありぬるをよ

すへ〜の藝い半分よきいゆるもの也あしく
斟酌もへ

一 地心と子とは陰陽也阿呼の二字も是と
たふたりおれなきことを免あたる陰陽和合と
是をいふ和あけりよはめさるせられたるせと
いふ能あまといとて陰とさうわらねてさや
らんを能なりか〜陰よは陽の心をま〜へ
よま陰を赤心は陽は少くむ又陽の能あまとい
とて陽のいもちうりなをさや〜らんいけ〜と
行よるてりや〜らんよまは陽のこゝろをもち
むひは陰はふらむ〜さあ〜ひ也女さうせり
中乃男たるせられたるせれ中のめさるせと云

ん持と同あり〜

一 一と拍子とは次才の事也上略中略下略
中れ〜とを打何とてもと拍子と〜りよ
うちらんをよらりもと拍子とあらき〜わ
中乃次才けり下巻よ是をあ〜り地いけき
い〜と心〜ら〜いを〜と〜あ口傳

一 舞一舞りのみとまなわ口傳る〜

一 一〜い〜さ〜う〜もの〜こと〜な〜さ〜な〜わ

一 一〜ん〜ひ〜や〜う〜い〜な〜き〜つ〜も〜乃〜見〜た〜ま〜じ〜よ〜り〜の〜ぬ
も〜や〜〜と〜も〜し〜く〜り

一 一〜ろ〜の〜た〜を〜〜と〜り〜る〜あ〜り〜赤〜黒〜こ〜と〜こ〜い〜と〜や
こ〜ら〜あ〜さ〜き〜も〜舞〜也〜む〜〜い〜し〜れ〜う〜と〜あ〜ま〜さ〜し〜白〜こ

志つら也うと父も志流つなわはくくろあき
さ流あまいのふ乃くくぬちうひくや一なわ
くくむりくくりくく

一ツろゑの舞とりふるあり是の源氏供養遊屋
関ち乃る也たし関ちの老女の舞をさし
のたある

一流く見を中拍子夜もつてもろけの歌は仕お
かん拍子と尸の敷四の也一拍子と尸を
あわ志へ乃拍子とつふるあり

一兼乃なれ拍うれ度あなりよりてまをもろ
へしせまきとくろりてし志をたうくけ
ねかきようていん兼くくさくくふまのさよ

そ時いあきよ似合んやうよソうおも志ん
志やうよソろよき花乃流かこくろくくみ
さやとへしまこひろきさきよてんつ
おかきよやすへしそき相應むり
彌子もひき彌子の大度あまていあくる
も度あ乃相應りんようふ也

一むりい兼乃うち流まわりまくけをねさへ
きりも回あよんけつを代いこまあき代也
とておきへひんちやくあせ流を儀はねへ
くくいりけもあき拍よなるなり新別上も乃
まやよ左様のりりあきものる下子乃
まやよかあひあ流拍よんあひし

けまわりすききせとめいいましよて作てる
りりなりいさやみぬ難いたくうち
あけかす習ひ也終るる方丈いふまへ
一藝いふりりるるるるるるるる
なる人のするわきい藝をかきてやりり也
心乃るなる人のするまきい必けいもきき
さはよらてけいありりりりりりりりり
かなる物也もるわき下はあまいりあす
人乃心ありき事たや我心をゆるさしは
るりありてけいさうは物なりおれかへん
人も能氣なとくかめりりりりりりりり
警古ふさこなりとくみやうもんを打て

警古法中ととくとうくもろけくあうか別
りりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりり
上よとありひもよなりりりりりりりり
もる志わきありりりりりりりりりりり
もやーりりりりりりりりりりりりりり
只わりりりりりりりりりりりりりりり
あまいとそ急いし急をむきと急けりり
かるりりりりりりりりりりりりりりり
きり拍子ありりりりりりりりりりりり
こと或は家を拍子きりりりりりりりり
とはいりりりりりりりりりりりりりり

わらわしをくみまひきりしは物の一なり
たむとを上とをたはくわかくしりたるま
しらたはよ上とをまひくしにたひよそ
ちかてはなちてありしね物なり初めのとき
いよもはよくあしひのしとく物しこれい
上とをいまひてま祿とひとはかくれし
くのちもちよよけて也大夫も上中の拍子を
あそまひをちとて面白き仕舞をとり成
上とを云あまきとてあひくひやうと
あまきとひきあひく拍子をたしむとすら
あき事とこれひ大夫と拍子きといなり也
是中意なりあひ

一箇乃つる忌のまつとこれあきとてあまきなり
あくち吏乃仕舞ありあきとつる忌へし
たぐい定家なとふとふいこころきん日なり
あつりる墓ありまひりる供尸りんね
尸んあてへ入る人とつひて二足三あり
物もいそつるうやうの取とすはつて
いろむもの也同く粗玄乃は肝要なり
か積乃り遊屋ありき宇治新政をとまも
ありそあいつる能もむねをき事なりあ
ぬういまりきなりあきく人ひたまでな
あき物なりあひなり也
一女たちせ男たちせ女中の男たちせ男らせ乃

中の女えうせとつふあり尚あまは陰陽と
こををりあまて分別あるべし陰の終ハ女也
かろゆ人まよとくとれをやうの歌をへし
但あまり陰まらけり人いともやまよとくる
こあま陽をくむべしまを陰まらけりへ
くいさあうまところ陰陽和合するり
ゆりてまやまら陽の終是をゆりて
分別あるべし

- 一越きさまものるけり字にめはめは字にまら
- 一小鼓こけきまらる字にきさまめは字に
- 一女れ幽冥陰の中は陽なり
- 一男れゆあまいいうら陰氣の陽也

- 一現在の男陽のまらなり
- 一草木の情もやれ事大略陰なり但陽も
まらもありまらひまらりて陽成
まらるもあり
- 一席の舞いけりてま成まらむら
- 一破乃舞いまらきまらるをまらむら
- 一陰の中乃陽遊屋千妻の舞なりあり
- 一鬼乃まらなりまきたうさいたうとそ二流
ありまきたう乃鬼いちうをまらくそ
たう乃鬼いませいまらりたまらく是をまき
たうさいたうとあつけくわ鬼乃女の鬼と云

事一もたぢ一いもちこまよて分別あふ一
鬼よめいどの鬼現在の鬼乃て存一ちもち
ちうあへ一やまうんちとんさいたう善泉
あひひ乃うへいりきたう也ん庫一こまぢあて
ひた一し又悪買の鬼とて人あとの悪念よて
鬼よなるものあゆやうよしくソも鬼の
わうちあわちまぢれこころもちうましくふ
ちうふぢ一ましくけいこま一し

一小作を送るい志ころきりい一きをわうこと
あきあひひよていほまとも上子のほくろの
かけんい中一天下一あてん下ふれかきんい
志こはまうい一き也

一喜曲よはまうへのひやう一ぢ志也

一ゆ一きあこころひ清あ望あうい大小り
もいほくひ乃様を三のうりのこ一てわく
一あひ也

一よはのちや一乃事一大事也いつまも陰なわ
さあよそぢうまひよなるものあくか何も
陰のちや一あきい陽のこちをもちて祿あわ
なもさま一ちや一はぢと一

一鬼乃具のち綿木かよひこまち船橋三番り
上こもてんもあうやう乃たらくひ是あて分別
ある一し

一就をいこくきん終れをや一や一あひあわ

由りを—とむきとて—人—の—買ひきたひ
ぬけたまは是なき—ふいよも買れしきこくと
みしる様よりやまへし

- 一 早舞乃らもちたるやき終ははるる所のてう—
うりたうわいと—終のさやきよ調子もうり
つともき成りけてうちらん—さそつこり—
あをふりけりし—のりらんちううぬ
ちふ事—あり調子とふくませうも調子も
かろく大小もろろは陰をもちよ共陽をうち
らん—のきとよきかきんよちやくなわ本
位よゆく物也
- 一 けくこよこ—急うちとりあ—とありは傳

- 一 ときりうちとりふ—ありは傳
- 一 ち乃るや—こまやうふ笛も鼓もよをうり
- 一 たれもや—あらん—きんやすなわ
- 一 本の席とりあ—は口よきままり平調—と
りあ—席なり又くまたきとりふ—あり但
を代三番よこむ
- 一 山笠乃うけりる盤渉なる—志—かきり也
- 一 程くれみこま大事—也みくれ是を見あたるせ
見だまの—あ—ひ物—の—下巻—
—を—あ—り
- 一 一日のうちよる成ちあ—い—も—人—たき—
うり—あ—ひ—笛—の—終—ち—を—あ—り

一 ちち乃本の出ん笛あしひあり口傳

一 大更二人三人して舞事ありはき大まなり
かぬひもうち計上よとめりけあんとて
りやまへし

一 ちちや笛又さうわさ成笛二人して吹事あり
是さういふいあまも也あはよあうのこも
めつ〜くありてよ〜

一 きわの舞いさう〜し身もちと見へ〜習ひの
かよ志てふよはるあまの勢乃出〜とさろ
かたようたなわ氣を志清めて〜急なう〜はる
才一乃あ〜ひ也
一 才一き〜ふ事ま〜な〜也

一 移んちちり〜ら愚ふちり〜ら乃ちの中り
あ〜ひあり口傳る〜

一 ちちのともあ〜ら〜らきる〜ら也

一 くあいのり〜ら二つあ〜ら〜らあち也

一 とあ〜ら〜ら二つめを清む〜

一 拍子乃あ〜ら〜らとりあ〜ら〜ら
とらよもて也

一 ちちやう〜ら〜らの儀やう大りなわら〜らあも
こまやふ〜ら〜ら文字れあ〜ら〜ら
ひとわり〜ら〜らひ〜ら〜らひ〜ら〜ら
文字く〜ら〜らあ〜ら〜ら打〜ら〜ら
よ〜ら〜らあ〜ら〜ら何ともま〜ら〜ら

一ちやうはくしんもすてひとわらふひたまをとり
くおかりくみくいなわらうくあひまあは
時乃はくしんものくわらひきく人徳のあしと
すまけさひひくあき横子地行もわを面白く
いろゑんもうんもう也

一あともゆくきさも乃事うくは塊よはれへり
一あへひきさも乃事一のは横のす但うてひま
よらて志ころくはまらころきくはくろひそ
うはる

一法藝者すよむひよはゆめあくくひ城めらて
才一の秘事也

一うち曲舞いさうきくとうとあへーさあき

なうきいふしそあしんいん道もいひ也

一きさも乃事志くすきありくおわは

一二よまはうくはきくしん十を四三

大略いれまころこまい金春わらわなわ南流い

大略いれまころこまい金春わらわなわ南流い

次才乃地をとばとら又つとすはるま

よをうけし急をうけぬ抱なり

一陰北野のるくうきさもたみおとん也

一陽のとも乃事うきさもともひはき

いそとん也たし曲舞一の中は二いろ

わくはらたあり右よるう陽の中は陰乃

事なり

一天子の舞乃れろしあり三拍あり三拍子まで
拍ろまへし

一舞のそや—子席破急あり舞とむる時俄り—
とむきい拍子志とろなりそわかへとまよわ
拍子をらせしてはめてとむきい志がよまき世
一舞乃ちち笛のあきとめい—うまうつりあう—
ひ—きりけて—う—うき—きめらきやう
なる拍なわろれうへ笛と—ひとのうけわ
そく—なるものなわ

一破の舞きりれうちよままひあんをとわいかりも
まま—破急やくとむる目みあたきてぬる也
一女まひのるふのちんのる才—乃あ—ひ也

一作り拍あり次才一才の事作り拍あ—り
う—きけりるい—う—うけをう—ま—一才—
う—哉とさうん—は口傳抄也—

一太極—見小—う—のまや—のいもちれり
大—みいゆる—とゆたうふまやまへし
小—見—い—はやうふまや—う—ま—
是まやまき鬼なり

一あ—せ—のりてまやまへし
一—は—我ものよりふるあり人よ—一—
わ—う—と—清—こ—ん—是—い—ひ—
と—い—る—ら—の—あ—の—
さ—う—ふ—ち—の—拍—ま—
さ—う—ふ—ち—の—拍—ま—

ちやーんい居曲舞のりや也古更仕舞もあく
うーひまてよてる居けくこの曲すわがりの
あー居曲舞をわり物とさうこめこめ

一 笛乃位羽子乃あきつーいうくひとのあきさ
いしきあくちよ似ころをよーとつり松子
志し玉けをききなうくころあうよ市たーあま
かえううよは松いさすう木あひひんて面白く
所よーけをききれむささあううりくーく所り
いしきけくひの心もちあめらくまくのむー乃
とこあよたえくわあーうーまーくあき横よ
吹なうー中ゆり

一 一おひよひーいせらひーうねーせらーい

ひーきもあひーきとーいあるあめ仕様おま
さうわをささういりーひーきなわひーきの
くくぬ坂あてそ終乃席破急坂志るへし
うーひ乃うちよいりあ乃る品かんのい持と
分別と

一 志しとやーい三妻よあめ

一 志しとやーいせいあーり

一 中井一せいい角田川

一 志しとやーいせいいまうりせ

一 志しとやーいせいい定家

一 かるき次弟い綿木の大夫出る次弟なめ

一 備後の一せいよあうーああまーき事ー也

一脩羅のねきけいこいりーらより打おせへし
一登し急のくくぬあつとりおの志こをうち
けくあつと云おの志こ城引入る急いとおあ
ひよりよりつゆ登し急をとうよりおゆいき
なわつきこ見うんよう也いきここよりあ登
こ急よたよりあゆ物也いきここの男也今い
登こ急あまわりたりきいりーまーきとと
きさこやこ急もひきくぬあ也但うへひ乃
調子とくろふよあへし一世の次第をとらや
あよりきとせぬいんひあきものりーる
たよりあくらり大更乃くひんあ急をも
ひきく急をもひくゆる也

一たもてよよりあやーとりあすありそ子あ
大更上よあ急い不通よめつーき物もてを
あくはるありも時の習ひを引うん物もてを
たもてへしこ急上よ乃わきなわ
一むりーい小ほくみと急志けくありくるる
よつて志こゆー但當世いからー大夫とーより
ねきいこ急をられますは急いむりーれりー
けき傳由よはなやー急をもくかつこの急
志けし老くら時法事撰せく急くらゆんよ
くくろの相應よまうせより物ーがわりき
時の急いとよよりてんよろく急こく
ふより當世いとよーからきとへ急いよあ

世もあつて一あつてんもろろ一あつてひも
やすーそれよ志さうひ離もかろしめはよき
とも上よあつて志つろふんち成見ちときは
はくへきを當世も上よ乃よろりつりる事
さうい初いりてふ志んをわくへるひ金春
せんちく親世言阿弥金剛そう世何かう志
連阿弥めはさうめをくろいわろーとも
花傳書の世もてよろむくへるひ徳藝も人乃
とよよりてゆるまるやあつて年よりぬまひ
よろひのけいおも一か別よいさく年一より
ころところけ藝をろくもわろきときひ
藝をもくまへ一わくはこくひ肝要也

一貴人の所おもへる笛清可聖あつて一呂よりあつて
いへ一縁とりをさくへ一中人乃まへよてい
さう此縁とりをさくへ一但志きを癒たてく
清可聖あつて一巾乃さ言より吹へし下めなる
人乃まへよてあつてよもさうよ吹へつひ乃
所可聖よはるあつてまきれを吹なり
一小はるさうりあつて所可聖あつて一おきはく見を
うひなり
一大はくみるよりりよて清可聖なる一吹才を
うひなり
一太鼓さうりあつて清可聖なる一きささるより打
出さうりあつて世にさういひあつてさき

一 又侍所望の時乃るすなり

一 うつひい小隠うれけいきりきよ御合ころ
祝云哉うそあなわつてのろろけなくして
俄子侍所望の時い御合ころころあうつれ
さ侍ものよそんきりいりけかえようなり
考人の侍所望乃時いころころ急をいしむ
一 舞い祝云のきりをまふしころき舞い
まくる拍子あまきりころあまきり
一 大けころうたのり人侍所望あうころ
うち出ころうちあふなり

一 児若流乃まへあそいころよもむやふころへし
一 女房衆の侍あまそいころよもけたうく打へし

一 知識長老乃能化れまへあそいころよもかきそ
舞子打へし

一 うつひのきり乃ん持まへ乃位振おてい
よもよをすくなく打へしきりよはあまわりよ
よいあきものなり

一 大つころ二位りへしとりあ事ありあまよと
尚麻子あり

一 うつひの大けと大事乃あうしありあうひ
あふり口付

一 ひやうてうあし此篇三番うりあふうねなり
むりそは口よ吹ころ進代めは

一 時よよりひうきみ乱拍子あるなり

一かうゑの舞乃々乱拍子此の所抄なり口傳
 一あつす事一女の舞一いつ拍程の二句一いつ
 一いつたよ一いつ三ととろよは志り
 一當代の所々みい我位を志してあつす進ぬ所成
 うちむくうりたくとてういつ二三進までい
 まきれぬ進とも行めていこと志けと進いで
 一いつあ一せと一あけ進る一いつあ一いつ
 一いつ進いきくふく一いつけいこ我肝要は進いし
 一これとの大けくみみ三いつ一いつといつ事
 あり口傳
 一舞一五進よきくこむあ一きよてい可我昔い
 三進よ是をさくこむ當代あまり一いつきととて

五進よこ進越さくこめお七お七とそおせいつ乃
 舞なり是を九いつよまけて九十のそや一とも
 一いつり九いつといつい席よ席破意あり破り
 席破意あり意よ席破意ありめいあ進い九いつ
 ならりや一いつら一いつ打一いつきのおい
 一いつすき四おのものもんちたと定家のくちりまきひ
 一いつおしとくこ進を九お乃浄土よくつとわて
 菩薩の舞あそひたまあつりお節とそ五進也
 一いつけ一いついきつく也極樂れくくの字也
 一いつあいよむりむり一いつきつをうちりけいお
 一いつをういつ一いつ順よん進いひたう也
 一いつをのいもち見物れとをきをえんといつお又

ちうきをきんといふとをききとちあきし
ともいふしちうきをききとをききしは歌也
こまをいひ也

一わく屋より日きたまみくもてめ就祓りても
つり物を志るるすう一わくをを見らていきて
よくあ見物流りめくう平流きていきて
志進よりあう一衣袈もてをうひいくくめ
をきりて一なると見へき也

一あきとむる一せいあきとめぬ一せいといふ
ことあり物の一ろや月海上よりうんとあき
といふいふことむつなわわ積のたかくひおか
うる一し是をもちてを割す一

一笛小のりと大のり見太鼓うらひいつまよても
その内の上をを同うけて位をきき

一鼓の役者わきとあきとあきとあきの人
わりの位よりせ鼓をひきこる一

一わきより志こめの役者ありといふとももち
うきむやうきは無益也笛大鼓の進も同あ

一あ座の所わの終の事トうきあきと玉うら
う八幡と志あきひけとねさめ乃茶綿本と

まらむ

一祝云のうらひの登し急いりよかんけり

一あき乃中舞もあきい一せいもも次弟もも
あきいもくとのうらうら世むまあきを

うらむをへりのうらむ事ありは傳
是子も其草あり終よらむいゆちいりく
かまらへ

一 天氣よき時を萬葉と彌子うりめよたすれ歌も
かちやくなりたりわらふ又天氣あきとさきい
彌子もめ侍人乃ころも志めりあこわうき
ころころあしきもてうきいゆやうよまわ
まへし天氣よしあきのは持なり

一 けくころちきるあひこは仕舞ありいつこの
うれにねあきしつるうちきり乃君よ
たまきことなまきめめ也もあまそとら
まきき大夫をうくころ事ありいつこの

うちうへしあきころきい仕舞り
よりみありいし回く二三人の見
あし又あいのひの時ちまらと
うれうちよあふととらまきれをうく
まらつあしきをあらんよ待あらせ
うちきいしあいのひあしはくころ
打うけらうちよたちあしうれ時みあを
うちきわてうみつこさするわこまよし又
まをひをうくたちまらいまこ打あし
るいあいの見あせかんようなわ
一 七孫孫盛久元服曾孫ちやくいりきも同あ
い

一さうの乱曲老松乃曲舞楽居士の曲舞たわ
是を以てれたらひ乃歌分列せし

一きやう乃らん曲志しひけ乃曲さききうろへ
先帝の牙あけびたらくひ也是を以てけくわの
のふ分列あふし

一祝言の終お生難波の梅也是故もつて祝言の
のふ分列あふし

志うきん乃才一と尸いおをいりり祝言を
ふくまきおてかくへしはもまあやふ
たくさんよりへしあう物一ろく
せすはちとるい

一幽玄い物よた人の花山を以てお路をわきま

廣林孫景よ至て白成くくもしし
ゆうよまあやうふたやまへし祝言よあうわ
かきおあてもの行もきとら成やつけ
物一ろき曲とあふへしこも幽玄乃本意也
まへにたへし

一きんがのまや一乃るすいおれ幽玄のふく
なわころ也たまへいゆうきん春のあけやのふ
似くわは急慕い秋乃ゆあへをのそむりこと
月の歌乃くまもあきさう一草中よむの急
くくふ物もくまきえ源窓よまわり入月歌
まてむしとまきさうなる心持なわつまも
急あとも所くけもたもろくお持の

相應よちあすへーまふとねはぬやうみうら
くーきまをうけへーうーひまゆーあき曲い
びきんがよまへーしよくはたて歌へし

一 哀傷のともやーの事たとも人の春の花乃秋の
お祭ちあちりくーまなわんてく燈山乃うせ
おとこきこころ也のうまもうまひをちんり
むひよあそりやもへし屋一急の位うーひ乃
きんよ相應しと哀傷よりけへしよあををも
あーうたなくさんよけよきよ又花やうあるよ
くーね位い陰のくーぬ也よくいねるー
一 乱曲は曲い大さのち庫一也いつまもと
あうーとりよき徳と流通すへしつひの徳よ

かー音勢ノ吟文字うつり句はきことくを替り
のくちくめの寸むりーとよくこもちて
うけへし乱曲よよりてちんちゆきよりぬ取
物却ーよくんかくへしあときき成ひつとり
中をひとの地をくか地中をひつとりわてあも
まきと一の地くーぬよそやひひのゆるみ程
まそやるところあうーひ乃あーよよりあそ此
ゆきやうまへし口待よあををもつよよとく
本よ花のききころやうけりまを打へし

右五書の難次おわかりしめはこま
なる代には待あてし業よ及ひる

一 つゝのよれ事一我あうーもよを打志がり

のりころ板おのひるりし志つらくあへて
ちとさまてし

一 能き時乃ちや一の事いさうわさしに
猶一志がまきほくとちあくるあひしたま
かぬしして大るすなわよくぶあむへし
そやうりなわちん持きあひをくまの能の
ころもちむじのぶゆつへ一た様は心うけら
歌よ志う絲あめてあうりあるものなわ

一 かつと中子此す地川のそりりんれりり
うらまそあう地りり越るの中乃地り
とのませてはと越るつねとふおのり地中
乃ら子と扱ては三内うちねりりりりて

乃せてこを頭らうきそよするきさこころて
三をよゆおのちめば中子乃数いたかくあ
うんち上略中略下略してよ志あをうとん
うま乃旬うけりは似合ころおあそりり
のんちくめをいけけりりうくつあきうち
ころをよとりあ乃るあなりとも志がり
のりまい打合しつてかめしきうり板
ころろよ思ひうちあへいよれうちたき事
かきりあう道を高座の花とつりあき
るりなわ

一 門おのちや大小笛太鼓うらひともみうち
あしあきりへ一隠かゝりりあひなわ

やうそくへはとりわけなわ

一むことりよめとわかへは打へし大小太鼓笛をり是をきこふもち也むもふをうへ

一船中よその心持太鼓大小笛をりあるはを打へしはか人其心をもうこも大鼓志はめりしは笛吹志つむるは吹へやうりわさまの笛は調子双調ひの節をいぬい太鼓はあつすは吹へしは口傳をひありかつと地川の音を打へし笛ひくへくすおきけも乃る名繁る人乃位よりうへし終つたへしは家天上人平家の一門源氏の

一門をといひし三の四もくはし又市代友の清りまじり乃たといひ二のすもやき舟人きこりあといひ一のありへ

一せいの笛は四白一吹はあり且きの乃まんの一せいよあり口傳

一江口のあひ乃あひしはとりよあり口傳

一吹はとりよ事一笛はあり是いたき乃清まつりの時をあひの終ありそあきへしは似るなり口傳

一笛舞のうちの手初なる太史の舞はときいこんをうちやくし吹へし上よ乃太史をい太史乃あひを見合ふは吹所ありへし

八拍子

次才三子分るわきこは
きいまるさきしり

うろきまあ

さきしり也

中拍子

えあーおち

はく拍子

ろろき拍子

ろのめ拍子

はきお拍子

ともし

才一乃いさこゆー先を
たちけうぬおなり才二
たまーいのあきさう如く
意味也才三いうろー落
付いさしり物乃しー
またろく拍子也才三の
拍子いうろき拍子も中の
拍子も落付拍子もこも
るんる三拍子ろろひん
上よ此ひやうーなり

一のふ乃位乃事いよまきうの能なりともたま
とーしりあーいんやーれこあもちなるへし
いよあーいばかななりともあーひのこし
まはりやきぬ物也つりまきの事もあーひい
ひひよあて商度のきてんかんよう也

一貴人乃侍うへひあともあまうあちき討い
考人のうへひ下まなわともそれよけくへ
又拍子うへなとあき人なりともあてこり
初んに見うけをーやうまはなまやーうけね
物也考人の侍徳れまやーやうなり又一座の
たまもま分也座うりあてうあーあー熱別
まーあやうへひなもまひん人よつてまわり

をへんやうは打る舞か此れ一つけ也
 一 此をわくゆるまの上より名をとりのり人の
 かへてしもうつへし是のりへりて初心を
 わきまぬたわ物の一りかへもせぬを
 うこむはよくかきておるなりきもの也
 一 菰戸是い多くきは神をたてて歌をへし口傳
 一 大伝のふのりういと似るわ
 一 山伏乃名紫い半信をまじりたてさうのあのみ
 志とけあ一り一り
 一 此連の能も大夫の舞をいかろくさくく
 たるもへし地うへへしあきり一はく
 たるわのさやしやうまは歌うんもぬ物なわ

あしひるたまきわくと舞る雨うへひ乃肉
 うへひす急よは打きりあせぬもの也大夫
 きうみまふあいつの二り打きりる雨なうひ
 一 此又一り打きりる雨習ひうちきうす一拍
 子よてやりうてむよるか横乃いけ地うま
 たるやしてかんよう也又いたく大夫きうり
 けめて舞うて舞とめうよも志流むる終あや
 あふ乃うん乃うちれせかくれゆうふよく
 うやう乃雨うへひ志つまる終い大夫の中入
 ちらひ地うへひの肝要也同く八舞のつう
 ちと松風うわ乃をささひくそなわよる
 か横此雨あかるとたまきわくととんたつき候

志つむひの仕舞あわげ能子かきうまうやうの
 たらひ物却一是をもちて分別とへし何時も
 大ま子目をまふさふいりけり合大夫の身乃
 ありまを物まていともや一地うまひの見合せ
 りんよう也たとひつひ子志めぬ所なわとも
 太夫の仕舞儀子志何れい離うまひおかき子
 行ゆく志何れお物か横のうまうけり用也
 一唐船うしめいきりかくい祝云きこも祝云
 一女乃就のり破のま庫一なり
 一天鼓うまひ破乃席なり
 一さか山祝云ん乃破のま庫一也
 一西王母祝云なり破の終なり

一乃の志とやうふともやまへしきりい破なり
 席い急りともや一也
 一岩舟玉に物席の終なり
 一小つとも大行もりりころ皮もてうり時れに持
 ころころ皮もて打時乃心もちの事一まら
 りりころ皮もていふつともきこもりちまら
 へし熱横のこころあしきりりころ皮もてい
 必さきころもの也の事一まらぬともは
 りんよう也志とゆくある物なりやうのころ
 うけまへりともり分別てあしきるをめ
 俄子人の清所あわけりともは
 一あまとむり一せいの真の一勢一さう乃一勢

ゆの一せいの家一せいのぬ一せいの中の一せいの
ちつりなる一せいのく一せいの積り一せいの
いろも一せいの数ありつりもおもひのよまわり
鬼のつづは神のつづて佛のつづてあるひい
天人の上層中の女つや一せいの女抱根木つり
すもやき船頭さつひの家つづてく一せいの
ふおよまりてちつりあしつづてく一せいの
口傳けいこつてつづてやうふえや一せいの
祝云の一せいのせんがれ一せいのゆきんの一せいの
あいのちつりの一せいの乱曲志のつづてく一せいの
つれくつるつづてく一せいのつづてく一せいの
あまてつづてく一せいのつづてく

一急れ物もふた 一つげふ 一揚考女左
一あや乃つて右 一だらやま右 一羽衣 左
一誓新古 一二人勢 右 一吉野勢左
まていなわ物あつてま志とほき抱也まは
まへしよまき此れ皮も交と冬ともまてりする
抱也おあつて雨の日天氣よまきまらわあり
うやう乃事つてく一せいのけり男なり又あつてま
皮あつてつづてく一せいのつづてく一せいのつづてく
いほつてつづてく一せいのつづてく一せいのつづてく
よまきまらわあり一せいのつづてく一せいのつづてく
一せいのつづてく一せいのつづてく一せいのつづてく

むよん書乃おき流付くわしうそ多くよてう
たうをうて見る物あてんとうく我える色よ
いろくゝんをつけくゝあむへしよよあをね
たうくみせ警古をききいよあつひ乃半分も
きくえぬ物也返くなり物乃だくあも肝要也
一太鼓乃もちかろきたち物もきんちのりうろ
きたちよていあんの音つりまきなりわき上
拍子ききしうへし志う流よもつてきり乃本
あといあき也ま物もきんちよて祿しう
うゝうゝへし

一うめた

一陽の中乃陰い遊屋千壽の舞也

一小ゆゑと太鼓よりうあまわちうゝをいきて
たわくつけぬ物なりふつゝわ乃あうい
たきとるいへし

一たまのうゝひのうちうゝまきすわろき也
あををひうへてききとひきく志んよいもそ
うゝろあつさめうゝくと歌もへし音曲也
たまをまうゝひれ文字くさりの人ちくめを
いけてよせうゝつて音曲いへしとらね
又のへてうゝをてけをよもへしとらひ
あれうちうゝも序破急の心をうけて歌へし
一作わ物おる依り物乃舞臺へおさまりらぬ
君い骨をもおらひをうゝまらうゝよもく

いよも七文字よさう〜ぬや〜子歌す〜月也
一トよの寝たやまへ〜是も一ツの習ひのうち
かまへかとの用いよかぬ〜きことなう〜と
ろくも〜や〜てそ相應〜て置〜いた〜
さゆ〜ちれむあよのせた〜わ志かよも
の〜ぬよと赤た〜りる事〜弟一のひ〜も也
一〜さいの〜や〜よらあき舞とあ〜けりあ
たまも舞ぬさゆよけ〜ち見〜あひぬる
〜あり苗功志た〜い吹とをまへ〜又たま
舞とあ〜ふみそ〜あひ打あけぬ事あ〜れ
時〜苗〜り吹とむ〜しも〜苗もゆ〜ん〜と
吹とめ〜い〜寝〜り〜い〜い〜い〜い〜

一物狂の〜や〜さ〜みた〜ん〜よ〜た〜ま〜へ〜し
但物狂よ〜は〜し〜物〜と〜わ〜り〜子〜だ〜う〜
あひ〜と〜志〜ころ物思ひ乃狂人いあ〜ん〜り
た〜ま〜へ〜し
一中入よたま〜〜わ〜りな〜と〜時〜も〜
寝もすきて〜人〜ふ〜き物也〜色を苗〜
い〜ら〜たまを〜く〜へ〜と〜す〜し〜中入乃苗
お應乃祿〜り〜あ〜か〜ん〜
一抄〜り〜ち〜ら〜も〜ん〜り〜ま〜き物也越城
ひあ〜り〜ん〜を〜ん〜打〜し〜つ〜あ〜も〜く〜
た〜ら〜き〜い〜き〜も〜也大つ〜れ〜の〜ち〜も〜き
や〜ら〜ら〜け〜も〜ら〜い〜し〜寝〜も〜あ〜り〜と〜

大つては乃くさうりやうなむらひけすしてわさ
ひとわとこゑをかきてきまゆゆーうちてい
うこねおとほなわたのかちよ舞きささの
たうきも能りーもそやまへしたる人の鬼乃
のふ又いれとと舞或いりうこれ日き乃能乃
舞のうちなと越かちよきささきもくゆー
わーひんやうのたらくひいりけけんやうもて
か女能あとももさのさうーらよるさうも
為きよかけくとういへし

一おもていよさきあわをーてけい能乃ほまき
るゆをかじつ也物えなまんとしとあーする
見このよさき事一返こことかめさかすりなわ

うんましくもささほきまゝいまんまるとさう
うり由断お来るふよりり志さゆくたする物なわ
手のうちしき事ーい當座よおのひんよら
まをうちだきもの也當座乃をもちてさる
ももささねもかめーまたき物也さあう
るをさるものいきわくゆ物也當座乃花い
あきともほねの花あき人のほくつてのう
あはまーきなわもくこつあんあつてすゑ
ときて人乃かめらやうふこーあも肝要なわ
けいこーおかえさうてひの文字れくさうり
似あひこつてあのおあーはあさともそこつて
物のーろく感あはものなわ

一 乱拍子乃事 拍子を度ふりぬるや 一 一 一 一 一
あひひと乱拍子ともしつゝり 和音をとふまへに
席也あけんよりいらん拍子也拍子の名をい
わくあるはひとちりわ

千〇千〇〇●〇千〇〇千〇〇●

こまをくりりうへ 打なり乱拍子数の事 一 一
作る成る次才あわ花のふまは松りわとつふ
よりしてこまをうまもく 志ん子乱拍子の
んをもつへ 一 同音子次才をとふ時よはひくこ
らん拍子なわ大夫の一めくりまつりてはひ
あふきをとりあける時うちあきん也る成る

とはおつけくわと云取まそ 中子打あきん也
まひひとちりわ 一のりれうちつりおもはひよく
たくさんよりやまへ 一 つまもたうろく 拍
すきまへくたもまへ 一 席破点のいのりなわ
きんせいの末も乃うちあきん 一 出 一 わさの
仕舞よくこちりわつけへし

右の上二百三ヶ条の極意は巻よあき
あるまなわ末世よあひとあん
あひんこれ甲まましくみ法藝乃みこま
らつん時のせうもんのだめは伝書哉
うきさるされはひよまも秘密 一 一 一 一 一
継子れおひ見するさうさうの

秘書と尸ハ人をよたさふとあて秘書
とひ古と此名人の尸はくく人あひ
大よりおかしくめは

